

平成27年9月3日

商学研究科

平成28年度  
大学院修士課程（経営学修士コース）入学試験  
【小論文試験問題】

以下の文章と図は、荻谷剛彦・本田由紀編『大卒就職の社会学：データからみる変化』から抜粋したものである。（抜粋に際して、一部の小見出しを省略するとともに、文章の一部を改変している。）この文章を読んで、以下の問1から問3に答えなさい。なお解答にあたっては、全て日本語で書くこと。

- 問1 傍線部（A）に関して、岩田によって明らかにされた「学歴がシグナルとして用いられることになるロジック」とはどのようなものか、400字以内で述べなさい。
- 問2 傍線部（B）に関して、「自己成就効果説」とはどのようなものであるかを、「研修後能力判定真正説」との違いを明示しながら500字以内で説明しなさい。その際に、「社会化」と「訓練効果」の具体的な内容に言及すること。
- 問3 近年の日本企業を取り巻く環境の変化は、本文全体で論じられている選抜システムの機能に対してどのような影響を及ぼしていると考えられるだろうか。あなたの考えを700字以内で論じなさい。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

出典：苅谷剛彦・本田由紀編『大卒就職の社会学：データからみる変化』東京大学出版会, 2010年, pp. 14-18.